

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成 24 事業年度の業務実績に関する評価結果

和歌山県公立大学法人評価委員会

## 公立大学法人和歌山県立医科大学の平成24事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成24年度業務実績に関する年度評価を実施しました。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものです。

今回の年度評価は、第二期中期目標期間の初年度の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価しました。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、効率化、活性化等が図られ、教育研究並びに診療活動の一層の充実と法人の業務運営状況に対する県民のより一層の理解が深まることを期待します。

平成25年8月

和歌山県公立大学法人評価委員会

# 目 次

## 第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	2

## 第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	3
(2) 研 究	4
(3) 附属病院	4
(4) 地域貢献	5
(5) 国際交流	6
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制 システムの構築等運営体制の改善	6
(2) 人材育成・人事の適正化等	7
(3) 事務等の効率化・合理化	7
3 財務内容の改善	
(1) 自己収入の増加	7
(2) 経費の抑制	8
(3) 資産の運用管理の改善	8
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	8
(2) 情報公開等の推進	9
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	9
(2) 安全管理	9
(3) 基本的人権の尊重	9

## 第1 全体評価

### 1 総 評

- 「公立大学法人和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。」という基本的な目標のもと、この1年間、公立大学法人として求められている「地域に開かれた大学」及び「地域社会への貢献」という使命を果たすべく、より良い大学教育と地域医療を実現するために、教職員が一丸となり組織の充実・拡充と事業の拡大に取り組んだと認められる。
- 平成24年度計画116項目の実施状況を確認したところ、11項目について「年度計画を上回っている。」と認められ、102項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、3項目については、努力は認められるものの、十分年度計画を実施していないという結果である。これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。
- 特に、以下の取組について評価する。
- ・ MD-PhD コース<sup>※</sup>など多様な履修形態の導入に向けた制度検討を行い、25年度から新たな履修制度を開始することとした
  - ・ 卒業年次の留年者なく、高い医師国家試験合格率の維持
  - ・ 高い看護師・保健師国家試験合格率の維持
  - ・ 平成25年度4月からの大学院保健看護学研究科博士後期課程の開設が認可された
  - ・ 教員の英語原著論文の質の向上
  - ・ 附属病院本院の収益額の増加
  - ・ 紀北分院における病院群輪番制当直体制への参画や救急救命士の病院実習の受け入れ等の取組
  - ・ 若手研究者に対する海外派遣支援
- ※MD-PhD コース：医学部在学中に高度で専門的な大学院教育に接することにより、学生のリサーチマインド（研究意欲）を喚起し、基礎研究を志す学生を育成するプログラム。
- 一方、セクシュアルハラスメントの発覚とその対策等については、「年度計画を十分には実施していない」との結果となった。
- 平成24年度は第二期中期目標期間の初年度であり、そのスタートの切り方が注目されるなか、教育、研究、診療、経営面などさまざまな取組を実施し、全体的には順調に遂行し、概ね目標を達成できたと認められる。
- また、和歌山県における医学及び保健看護学に関する教育、研究、臨床の中心として活動することで、地域の発展にも大きく貢献しており、これが次年度にも引き継がれて、法人の更なる発展に繋がることが期待される。

## 2 特色ある取組等

### 【教育】

- 医学部において大学院準備課程を履修できるコース等、大学院博士課程に5コースの設置を決定し、多様な履修形態の導入を推進した。
- 平成25年4月から大学院保健看護学研究科博士後期課程の開設が認可され、地域医療に貢献できる教育者及び研究者を育成できるようになった。
- 医学部と保健看護学部との合同講義としてケアマインド教育を行うとともに、老人福祉施設等の施設における実習を体験することにより、コミュニケーション能力等を向上させた。

老人福祉施設実習	保育園実習	障害者福祉施設実習
100名	94名	94名

- 学長自ら「学長ランチミーティング」を5年生を対象に開催し、学生の要望、勉強の進捗状況について懇談を行い、学生への支援体制の充実を図った。

### 【研究】

- 学内の重点課題及び講座、研究室等の枠を超えた横断的な研究を支援する「特定研究助成プロジェクト」の発表会を開催した。  
平成24年度はその発表会の選考を7名の学外有識者で行い、より透明性の高い選考を行うことができた。

	H24	H23
応募数	9件	4件
採択数	5件	4件

- 教員の英語原著論文のPub Med収録論文数が増加し、質の向上が見られた。

	H24	H23
Pub Med 収録論文数	187件	162件

### 【附属病院】

- 高度で先進的な診療の機能を高めるため、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や放射線治療装置「トモセラピー」といった先端医療機器を新たに導入し、がんをはじめとする診療体制の充実及び強化を進めた。
- 附属病院本院の収益額が平成23年度を上回り、対前年度比6.0%増とすることができた。

	H24	H23
収益額	23,204百万円	21,899百万円

- 紀北分院において、病院群輪番制当直体制への参画や救急救命士の病院実習の受け入れ等の取組を行い、救急体制の整備を推進したことについて、評価する。
- 医師・看護師等の転入者を対象として、感染予防等の医療安全上の知識を提供するオリエンテーションを開催し、医療の安全性の向上を図った。

	H24
開催数	6回
参加者数	25名

- 患者からの意見で最も多かった「診断書窓口での待ち時間」について、臨時窓口の設置や、職員の増員により、待ち時間をほぼ無くすことができた。

## 第2 項目別評価

評定の区分	<p>S・・・特筆すべき進捗状況にある。</p> <p>A・・・順調に進んでいる。</p> <p>B・・・概ね順調に進んでいる。</p> <p>C・・・やや遅れている。</p> <p>D・・・重大な改善事項がある。</p>
-------	---

### 1 教育研究等の質の向上

#### (1) 教育

##### 【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載 41 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

##### 【評価及び指摘事項】

〈医学部〉

- MD-PhD コースなど多様な履修形態の導入に向けた議論や制度検討を行い、医学部教育と大学院教育が連携した履修コースの設置を決定し、25 年度から新たな履修制度を開始することについて評価する。

今後は、履修コースの内容の充実や、大学院の定員充足に繋げることが期待される。

（大学院医学研究科共通）

- 卒業年次の留年者なく、高い医師国家試験合格率の維持（H24：95.3%）を評価する。
- 医学部と保健看護学部との合同講義としてケアマインド教育を行うとともに、老人福祉施設等の施設における実習を体験することにより、医療人として必要なコミュニケーション能力、ケアマインド等を育成させたことについて、評価する。

老人福祉施設実習	保育園実習	障害者福祉施設実習
100 名	94 名	94 名

- 担任制については、まだ十分とは言えず、今後、その機能の充実に向けた改善努力が期待される。ただし、学長とのランチミーティングの実施は高く評価できる。
- 授業方法の第三者評価を行い、適正に評価する制度ができたことにより、今後はその効果の検証が必要である。

〈保健看護学部〉

- 看護師国家試験の合格率 100% について、評価できる。  
今後も引き続き高水準の合格率を維持するため、学生への支援が期待される。
- 学生相談については、相談体制を充実させたことにより、カウンセリングルーム利用者増加に繋げたことについて評価する。

〈大学院医学研究科〉

- 大学院修士課程及び博士課程の学生定員充足率が90%を下回っており、今後も入学定員の適正化や入学者の学力水準に留意しつつ、充足に努める必要がある。

〈大学院保健看護学研究科〉

- 平成25年4月から博士後期課程の開設が認可され、地域医療に貢献できる教育者及び研究者を育成できるようになったことについて評価する。

## (2) 研究

**【評定】 C (やや遅れている。)**

年度計画の記載8事項中7事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- 次世代を担う若手研究者の研究体制を強化するため、がん等の優れた学術研究を行っている研究者に対し助成支援する「特定研究助成プロジェクト」の発表会を開催し、平成24年度は7名の学外有識者による選考を行い、より透明性の高い選考を行うことができたことについて評価する。

	H24	H23
応募数	9件	4件
採択数	5件	4件

- 科学研究費の獲得実績については、前年度より増加しているが、教員に対し文部科学省・厚生労働省だけでなく他の省庁等の情報を積極的に提供したり、重点的な分野においては、優れた研究者を教授としてアポイントする等の人事面での積極的な取組を取り入れる等、更なる努力が期待される。
- 教員の英語原著論文の Pub Med 収録論文数が増加し、質の向上が見られたことについて評価する。

	H24	H23
Pub Med 収録論文数	187件	162件

- 和歌山県立医科大学の教育・研究・診療において全国に情報発信できるような分野を積極的に作り上げていくことが必要である。

## (3) 附属病院

**【評定】 A (順調に進んでいる。)**

年度計画の記載34事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- 高度で先進的ながん診療の機能も有する「地域医療支援総合センター(仮称)」について、診療に関する計画及び設置する関連備品等の検討を行うとともに、新たに先端医療機器を導入したことにより、がん診療体制の充実及び強化を進めたことについて評価する。

- 「急性期看護補助体制加算」の算定が可能となったことや、平均在院日数の短縮化に向けた取組等を進めたことにより、附属病院本院の収益額が対前年度比 6.0%増となったことについて評価する。

	H24	H23
収益額	23,204 百万円	21,899 百万円

- 附属病院の増収によって、法人全体の収支改善に繋がったことは高く評価できる。これはひとえに理事長のリーダーシップおよび教員や医療従事者一人一人の努力の成果であると認められる。

しかし、業績向上が個々人の努力のみに依存することなく、組織的に行われたかについて考える余地はあると思われる。

- 地域医療連携として登録医制度を導入しているが、今後は登録医にとってメリットがあるような工夫づくりを更に進めていく必要がある。
- 紀北分院の病床利用率は前年度を上回っており、経営改善に向けた取組を評価する。

	H24	H23
病床利用率	74.1%	70.3%

- 紀北分院において、病院群輪番制当直体制への参画や救急救命士の病院実習の受け入れ等への取組を行い、救急体制の整備を推進したことについて評価する。
- 医師・看護師等の転入者を対象として、感染予防等の医療安全上の知識を提供するオリエンテーションを開催し、医療の安全性の向上を図ったことについて評価する。

	H24
開催数	6 回
参加者数	25 名

- 院内感染対策では、MRSA の件数の増加が懸念されるため、体制の強化、教育の見直しが必要である。
- 患者からの意見で最も多かった「診断書窓口での待ち時間」について、臨時窓口の設置や、職員の増員により、待ち時間をほぼ無くすことができたことについて評価する。  
 今後は、待ち時間だけではなく他にも多くの課題があると考えられるので、その要因を分析・改善し、更なる満足度の向上が必要である。

#### (4) 地域貢献

##### 【評定】B (概ね順調に進んでいる。)

年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、中期計画の初年度であり、その目標達成に向け長期的・継続的に成果をあげていくことが期待されることから、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

##### 【評価及び指摘事項】

- 大学のがん診療への取組を県民に対して積極的に情報発信していくことが期待される。
- 地域医療支援センター教員による新たなテーマでの出前授業や夏の公開講座を実施したことについて評価する。
- 紀北分院の病院群輪番制当直体制への参画と、それに伴い救急車搬送件数が増加したこと



について評価する。

- 紀北病院における出前講座・健康講座の開催数の増加について評価する。

	H24	H23
出前講座開催数	21回	9回
健康講座開催数	12回	7回

## (5) 国際交流

### 【評定】B (概ね順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項すべてが、「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、中期計画の初年度であり、その目標達成に向け長期的・継続的に成果をあげていくことが期待されることから、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

### 【評価及び指摘事項】

- 若手研究者の海外派遣制度や、アジアの大学との学術交流について評価する。  
今後、受け入れと派遣の双方向性を更に発展させることが期待される。
- 大学院生が海外の学会で発表する場合の旅費のサポートや、学生の海外派遣についてはクリニカルクラークシップに参加できるだけの実力を備えられるように、学部教育の充実も必要である。

※ クリニカルクラークシップ：指導医の下で、チームの一員として初診から退院までの実際の診療に参加し、責任の一端を果たしながら、診療治療計画などの医師の業務、役割やその他の側面を臨床の場で体験する学習。

## 2 業務運営の改善及び効率化

### (1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制システムの構築等運営体制の改善

#### 【評定】C (やや遅れている。)

年度計画の記載2事項中1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

#### 【評価及び指摘事項】

- セクシュアルハラスメントの発覚については、防止策の徹底に合わせて、発生時の速やかな対応が必要である。
- 理事長直下の新たな「法人経営会議」を設置し、経営改善の討議等を実施していることについて評価する。
- 「理事長直下の経営管理体制の強化」という年度計画については実践されつつあるものの、理事長一人のリーダーシップに依るところが大きい。

中期計画の「理事長を中心とした経営管理体制の強化」に向けては、理事長直下だけではなく全般的な経営管理体制の強化が必要である。そのためには、経営陣（理事）の間で目標・課題・実績数値等を真に共有した上で担当の各部門を組織化する必要がある。

- 危機対策室の組織改編については、今後の運用状況で評価の判断がなされる所であり、今後の取組が期待される。

**(2) 人材育成・人事の適正化等**

**【評定】 A (順調に進んでいる。)**

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- 平成24年6月より新たに医療技術職員及び看護職員に職員評価制度を導入したことについて評価する。  
 今後は、単に制度の導入にとどまらず、職員評価制度が職員の意欲向上に繋がり、実行性のある運用を行えるよう継続的に検討する必要がある。

**(3) 事務等の効率化・合理化**

**【評定】 A (順調に進んでいる。)**

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- 年度計画の内容が事務職員の研修体系の見直しのみとなっているので、次年度以降は中期計画に向けての幅広い取組が期待される。

**3 財務内容の改善**

**(1) 自己収入の増加**

**【評定】 A (順調に進んでいる。)**

年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- 年度計画で挙げた「病床利用率の向上」は達成できなかったものの、医業収入の確保という中期目標が達成されたことに対しては評価できる。
- 附属病院における「病床利用率の対前年度比2ポイント以上の向上」という年度計画について、次年度には目標設定の再検討をすることが必要である。
- 病床管理の重要な要素と考えられる入院実患者数と平均在院日数が、附属病院において前年度より改善していることについて評価する。

	H24	H23
入院実患者数	16,015 人	15,264 人
平均在院日数	15.0 日	15.7 日

- 大学での受託研究や科学研究費補助金の増加について評価する。

	H24	H23
受託研究契約数	45 件	43 件
科学研究費補助金	641 百万円	525 百万円

- 「適正な経営分析を行うとともに、各種の対策を講じ、医業収入の増加につなげる」という年度計画に対し、実施状況では、法人経営会議・病院経営委員会の議題を列挙しているが、議題の検討の基礎となる経営分析が十分できているかが問題である。
- 外来患者・入院患者ともに増加しているということは、同時に職員の負担も増加しているので、職員に対する処遇についての考慮が期待される。
- 紀北分院において、診療報酬の改正に伴い、診療報酬制度に関する職員研修等を行うことにより、新たな施設基準届出を行い適切な診療報酬請求に繋がったことについて評価する。

## (2) 経費の抑制

### 【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

### 【評価及び指摘事項】

- 医薬材料比率を前年度より改善させた経営努力について評価する。

	H24	H23
医薬材料費の診療収入比率	33.27%	34.65%

- 医業収入の増加によっても医薬材料比率は低下することから、単に医薬材料率の改善だけでなく、今後は「医薬材料、医薬品等の購入状況や支出状況を分析し、経費節減を図る」という中期計画達成のため、より厳密な分析を行うことが期待される。
- 経費削減に関する項目に対して、全般的な種々の勉強会の内容が列挙されているため、経費削減に限定した啓発活動や経費削減の具体的事実を記載する必要がある。

## (3) 資産の運用管理の改善

### 【評定】 B (概ね順調に進んでいる。)

年度計画の記載 1 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、中期計画の初年度であり、その目標達成に向け長期的・継続的に成果をあげていくことが期待されることから、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

## 4 自己点検・評価及び情報提供

### (1) 評価の充実

#### 【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価 Ver6.0の認定を得ることができたことについて評価する。

今後も、更なる診療の質的向上を目指していくことが期待される。

**(2) 情報公開等の推進**

**【評定】 A (順調に進んでいる。)**

年度計画の記載 1 事項が「年度計画を上回って実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**5 その他業務運営**

**(1) 施設及び設備の整備・活用等**

**【評定】 B (概ね順調に進んでいる。)**

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、中期計画の初年度であり、その目標達成に向け長期的・継続的に成果をあげていくことが期待されることから、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- 平成 25 年度完成予定の地域医療支援総合センター（仮称）は、へき地を含めた地域医療支援に大きな役割を果たすものと考えられ、今後の運用が期待される。

**(2) 安全管理**

**【評定】 B (概ね順調に進んでいる。)**

年度計画の記載 1 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、中期計画の初年度であり、その目標達成に向け長期的・継続的に成果をあげていくことが期待されることから、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- 大津波へのハード、ソフト面からの早急な対策が必要である。

**(3) 基本的人権の尊重**

**【評定】 C (やや遅れている。)**

年度計画の記載 2 事項中 1 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

**【評価及び指摘事項】**

- セクシュアルハラスメントに対して率直に反省し、防止体制に真摯に取り組む決意を表明したことについては評価できる。
- ハラスメント防止の強化のために、他大学の取組等を参考に制度の有用性について再点検する必要がある。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略）

氏 名	役 職 等
明 石 純	医療経営学研究所所長
坂 本 す が	公益社団法人日本看護協会会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院院長
辻 省 次	東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経内科学教授
◎ 中 川 武 正	白浜町国民健康保険直営川添診療所所長
乗 杉 澄 夫	国立大学法人和歌山大学副学長

（注）◎印は委員長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・ 第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成25年 7月12日開催
- ・ 第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成25年 8月 7日開催
- ・ 第3回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成25年 8月21～27日  
（書面審議による開催）

○大学収容定員等（平成24年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	540	547
保健看護学部	328	337
医学研究科	196	136
修士課程	28	23
博士課程	168	113
保健看護学研究科	24	23
助産学専攻科	10	9

○教職員数（平成24年4月1日現在）

総 数（人）	1, 457
教員	348
事務職員	101
技術職員	3
現業職員	13
医療技術部門職員	184
看護部門職員	799
研究補助職員	9

（出典）平成24年度和歌山県立医科大学概要